

農政連だより

みどりの風

Noseiren Dayori Midori no Kaze

4月号

No.244

主な内容

- ・第13回農政連リーダー農政研修会
- ・JA やつしろ女性部活動報告
- ・ガンバッテいます：八浪洋一さん、下田博子さん
- ・各連合会からのお知らせ

発行／熊本県農業者政治連盟 JA 熊本県会館内 熊本市南千反畑町2-3 電話 096-328-1284 編集責任者 木村 幸季
発行／毎月1回 15日発行 平成9年7月4日第三種郵便物許可

根子岳と桜（高森町：写真提供 熊本県）

阿蘇五岳の一つである根子岳（標高1433m）は、高岳、中岳に次ぐ高峰で鋸歯のようなギザギザの稜線を連ねた珍しい山容から、多くの人々に愛されている。



せせらぎ

先月、「日本経済新聞」に連載された「二ツポンの農力・宝は眠っている」は、非常に愉快な特集だった。

農産物加工・販売会社「遠赤青汁」は、愛媛県西条市で耕作放棄地12haを借りて、ケール（緑葉甘藍）やニンニクを有機で栽培する。更に2haを拡大する予定という。長年使われなかった耕作放棄地は、有機栽培には最適と断言する。

また、数十年放置された耕作放棄地の棚田を復活させ、米作りを行い、観光や町おこしに転換している地域（香川県土生町）もある。

多くの日本人は農村や里山の風景に懐かしさや、安らぎを覚え、活用によっては大きな収益を生む。

現在、我が国の耕作放棄地は三十九万ha、全耕地面積の八・五%を占め、長崎県の面積にほぼ匹敵する。仮にこの耕作放棄地の半分を農地として活用できるならば、単純に千八百五十億円の農業生産額が上がる計算となる。まさに、眠っている宝の山である。

更に、「地元の人は棚田を厄介者扱いにするが、使い方によっては宝物になる。」と早稲田大学名誉教授の言葉を紹介する。こうした取り組みが少しずつ始まってはいるが、まだ面的広がりにはほど遠い。さて先月末、政府は、今後十年間の農政の基本方向を示す「食料・農業・農村基本計画」を閣議決定した。

この中では、食料・農業・農村政策を国家戦略として位置づけ、国民全体で農業・農村を支える社会の創造を目指す。そして十年後の食料自給率の目標を五十%（現行四十一%）とした画期的なものである。今後この計画の達成には、十分な予算の確保が欠かせない。

そして更に、国民総参加の下に、眠っている宝の山の再生に取り組む必要がある。



第13回農政連リーダー農政研修会を開催

3月1日、JA熊本教育センターで、農政連委員、総支部長、生産部会、青壮年部、女性部、JA、連合会役職員など約150名が参加して、農政連リーダー農政研修会を開催した。

研修会は、テレビ、新聞などで評論活動を行っている日本大学法学部教授の岩井奉信氏と、元NHK解説委員で農政ジャーナリストの加倉井弘氏を招いて講演を頂き、農政の研鑽を積んだ。



▲講演する岩井氏（日本大学法学部教授）

岩井 奉信氏

『今後の政治・経済の流れをどう読むか』

昨年の衆議院総選挙の時の流れを分析しながら、民主党政権の動きや今後の行方について話をされた。

主な話題として、6つのポイントを挙げて話を進められた。

- ◎ 支持率低下で政権維持に黄色信号がともった鳩山内閣
- ◎ 政権交代に対する期待を台無しにした鳩山・小沢の政治資金問題
- ◎ 居座つては困るが、いなくても困る小沢幹事長の功罪
- ◎ 敵失を生かし切れず、分裂も噂される自民党の惨状
- ◎ 7月の参院選に向けて、鳩山民主党に起死回生の秘策はあるか

◎参院選以降の日本の政治と農政のゆくえ

この中で、民主党の政治と力ネの問題がクローズアップされるなかで、なかなか支持率が伸びない自民党の危機を指摘した。

また、7月の参議院選挙が如何に大事な選挙であるか、日本の政治を変えるために有権者がどう判断するか、普天間基地移設の問題などを言めて5月ごろまで目を離せない動きが続く。小沢幹事長の動きが注目されるが、幹事長職を辞めるかどうか一つのポイントになる。

民主党にとっても政権与党としていろいろな問題が出てくるはずである。子ども手当で、高速道路無料化など政策における財政面の問題をどうしていくか、責任の重さも出てくる。これから参院選を控えて、自民党の舛添氏の動きが注目されるが、いずれにしても政界再編の大きな動きが、その前後に出てくると話された。



『世界の食料需要の動向とこれからの日本農業を考える』

これからの日本農業を考える時に、見極めていかなければならない大きなポイントを挙げながら、日本農業の生き残り戦略などを説明された。

新政権の直接支払い制度については、所得補償となつてはいるが、生産費の補てんであつて、生活保障ではない。一俵何万円ではなく、一反何万円での支払いである。対象農家は販売農家の約180万戸であり、全農家は250万戸である。対象作物は初年度コメ、いづれ全作物。そうした流れになつた時に、農家所得支持政策の財源はどこからくるのか、構造改革はどこするのか、問題は大きい。

弱体化する日本農業の現状として、次の点をあげている。

海外からの安い農産物の輸入が非常に増えている。食糧消費については、長期低下傾向にあり、市場にはいろいろな食品が溢れ、食生活の無国籍化（風土離れ）が起きている。コメ消費はピーク時より半分に減少し、生産量も減反の拡大でおよそ6割に減り、生産者所得も4兆円から2兆円まで落ちている。生産現場では、担い手の高齢化が進み、水田が零細で分散しており、耕作放棄地なども増加している。生産資材費が



▲講演する加倉井氏（農政ジャーナリスト）

上がり、生産コストが高くなるなど、農業者にとって厳しい状況である。

また、水田農業については、担い手は高齢者と兼業農家というのが現状である。

そこで、今までのコメ生産調整の問題点として、一つには、減反の強制的均等割当てをあげ、専業・兼業別、耕作規模、労働力、機械、収入など個別事情を無視した対策が問題であるとしている。また価格は維持されても面積が減るため、収入は減少する状況となつている（総収入＝面積×単収×価格）。収入拡大をめざす規模拡大が不可能なことや、若い担い手が加入しない点などもあげた。

一方、農政転換では、農地の担い手への集積、計画経済から市場経済への移行、上意下達から自主選択・自己責任へ、また零細経営から法人経営へ、

担い手の限定支援（認定農業者）などの方向へ農政が動いていく中で、農家にとつてしっかりとした将来像が見えず、農家の世代交代も進まないのが現状であると指摘した。

こうした中で、日本農業の生き残り戦略として次の点をあげた。

- ◇国際社会の許す関税障壁を維持すること（コメ780%、小麦250%、乳製品200%など）。
- ◇外国農業との「棲み分け」であり、量より質、加工より生鮮、ブランド、技術力を磨いていかなければならない（高付加価値追求型の農業）。
- ◇生産性向上で内外価格差の縮小を図る。コメや麦の規模拡大、企業化、雇用労働などを進めていかなければならない（価格競争型の大規模農業）。
- ◇収益性をあげるため生産から加工、流通・販売までの6次産業化への取組み。地域や消費者まで結びつくネットワークづくり。

今後について、水田農業における稲作経営の厳しさ、戸別所得補償制度だけでは問題の解決にならない点、若い世代が農業に進もうという期待を持っていないことなどへ警鐘を鳴らす。

更に日本農業を守るためには、国民の農業保護負担の意識を高めていかなければならないと強調し、理解促進を図る活動が大切であると述べた。

農政連事務局から

同研修会の中で、木村農政連事務局長より農政連組織・活動の重点事項について説明した。

(1) 地域農政の確立と政策価格対策運動の強化

農業予算、農産物の政策・価格対策等について、全国農政連との連携の下に、生産現場の意見要望を積み上げ、国、県、市町村等に対する要請運動を強力に展開する。

① 国、県、市町村の農業関連政策・予算対策

② 畜産物政策・価格対策

③ 新たな「食料・農業・農村基本計画」の策定への対応

(2) 課題別農政対策の強化

WTO・EPA対策、食農教育運動強化等、課題別農政対策を、支部・総支部及び県組織一体となり、取り組む。

(3) 農政推進体制及び情報活動の強化

農政推進体制を強化し、農政運動に対する意識を高め、組織の拡充強化を図り、盟友への情報の適切な提供を行なうため、情報活動を強化する。

(4) 「熊本みどり・食・環境基金」設立による農業・農村及び環境を守る運動を積極的に展開する。

① 農山漁村等地域環境美化活動事業

② 食農教育事業

③ 消費者・県民を対象とした、シンポジウム、集会等の開催

④ 県内の有識者等による「熊本みどり・食・環境基金運営審議会」を設置し、幅広い提言を受け、より効果的な事業の展開を図っていく。

女性部活動報告

■ J A やつしろ女性部報告 ■

J A やつしろ女性部は 17 支部からなり、泉サダ子部長を中心に現在 1554 人の部員数で活動し、頑張っております。

昨年は J A にも女性理事 2 人が誕生。今まで以上に女性部活動の輪を広げて行きたいと思います。

下記に今年度の活動の一部を紹介します。是非お読みください。

女性部、家庭菜園コンクール開催

11月9日、「21年度家庭菜園コンクール」が開催され、昭和・千丁町・北新地・鏡・宮原・東陽・泉・竜北町の各部員の家庭菜園を本部役員・営農指導職員で審査しました。

奇麗に整えられた畝の中で、作物の種類、出来具合などを聞き取り、各家庭での堆肥・有機肥料を有効利用し栽培を行っている話も聞かれました。

旬の野菜が並んでいる菜園を皆で歩き、審査員も最後まで関心の様子でした。



女性部が自家生産の野菜を使いキムチ作り

女性部では旬の白菜を使い、キムチ作りを行いました。

元々は平成19年度に自家生産野菜の地産地消を目的として初めて企画されたもので、今年で3年目。2月8日には日奈久支部で実施されました。

当日は部員20名が参加。用意した白菜40kgを始め、りんごやしょうが、玉ねぎなどを下準備。J A 生活指導員の説明を受けながら米の粉やニンニク、本場韓国から取り寄せたとうがらしなどを混ぜ合わせて調理を行いました。



春一番も吹き飛ばす！ 女性部グラウンドゴルフ大会開催

2月25日、女性部は部員同士の親睦と組織の強化・発展を図ることを目的に、八代市千丁町東グラウンドで初めてのグラウンドゴルフ大会を開き、部員・役職員約180人の参加者がプレーを楽しみました。

当日は春一番が吹いていましたが、どのチームもその風の勢いに負けない明るいパワーで大いに楽しみ、「良い運動になった」「難しかったけど楽しかった」などの声が聞かれました。





八浪 洋一さん
JA鹿本 稲作部会長

JA鹿本の八浪さんのお宅を訪問しました。八浪さんは、昭和24年11月生まれ。

鹿本農業高校を卒業し、地元企業に32年間勤めていましたが、バブルの崩壊等で会社を退職し、家業の農業をすることになりました。

その時に、地域の農家から温かく迎えられたことがうれしく、感謝の気持ちで、集落のいろんな世話を引受けられています。「農地・水・環境保全対策」の事務等も経験され、6年前からは、JA鹿本の稲作生産部会の部長をされています。

経営面積は、期間借地等を含めて、水稻10ha、大豆80ha、麦20ha、アスパラ40a、枝豆10aを栽培されています。

■土地利用型農業で農業法人設立

平成16年に農業法人を立上げ、有限会社「テカノウ熊鹿」を作りました。会社名は、自分の甥子が考えた名前だそうです。

米・麦・大豆の土地利用型農業を営みながら、農繁期はかなりハードな作業となりますが、人一倍の頑張りで、法人経営に取組まれています。

八浪さんは、「認定農家での年やってきたが、集落あつての認定農業者である。農家は皆が社長なので考え方もいろいろあり、こだわりもあるので、まとめるのが難しいことも多い。

政権が代わったことで、今まで通りには行かないという状況から、農家にとっても一度、地域農業を考え直していく好機と捉えたい。また生産部会を託せるように、後継者を育てていかねばならないと話されます。

■販売に対する意識改革

米に関しては、特別栽培米への取り組みを始め、「夢大地米」の販売に力を入れています。大阪などに出向き、現場での小売店の情報交換やキャンペーンで消費地と産地のふれ合い・信頼づくりがより大切であると強調されます。

八浪さんは、「生産履歴、減農薬、減肥料の取り組みがやっとしっかりしてきたと思ってるが、もっと農家の販売に対する意識改革を図っていかねばならない。いろいろな観点から見れるという点では、他業種に勤めていた事がためになった」と振り返られます。

今後の抱負として、「25ha規模の経営ができる設備は整えているので、利用面積の拡大を図りたい。

また、6次産業が叫ばれているが、何かもう一つプラスした7次産業もあるのではないかなど新たな発想への追求も忘れません。

■好きな言葉

飛躍 「前進あるのみ、止まっているよりも、常に前に歩きながら考えていきたい」と話されました。



部長 下田 博子さん
JAあまくさ新和町フレッシュミズ

■天草の新和町出身

下田さんは天草の新和町出身。最初は、旧新和農協に勤めていました。ご主人とは青年団活動を通して知り合い、20年前に結婚しました。現在は、三人の子供に恵まれ、同じ新和町で暮らしています。

■ミカンいっぱい

下田さん宅では、両親、ご主人と共に、米85a、かんきつ類を併せて15a作付けしています。品種は、ハウス栽培のデコボ、露地栽培の河内晩柑、甘夏、清見です。農業に関しては、できる範囲でがんばっています。

「今まで子育てなどであまり時間が取れなかったから、まだ農業をしているという実感が少ないです。」

また、「以前の仕事は休日が決まっていたましたが、農業は天候などに左右されて不定期になり、戸惑いを感じました。」と話されました。

■土日はバレーボールの日

体を動かすことが好きだという下田

さん。フレッシュミズ活動のほかにも、地区のミニバレーボールに参加しています。週に一回のペースで土曜日が日曜日に練習。「あまり上手ではないですが、楽しんでいきます。」

■フレッシュミズの活動

JAあまくさ新和町フレッシュミズは、4年前に結成されました。初めは女性部の有志の集まりからスタート。下田さんも女性部から入会して4年目です。

現在は14名の部員で活動しています。月に一度、打合せを行い、何をやるかを決めます。

年3回ある支部長会議で紹介された活動等を参考にし、やりたい事を提案します。最近は手芸が多く、今回は紙テープで作るクラフトバックを制作。

今度はミニサイズのバックを作ろうと計画中です。また、月に一度集まることにより、子育て等の悩み、相談ができ、ストレス解消に一役買っています。「子育てが一段落した部員が多くなつたので、一泊付きの研修旅行を計画しています。ですが、なかなか予定が合わず、行けません。」

■今後の抱負

下田さんは今後の抱負として、「最近はず育ても一段落し、自分の時間を持てるようになったので、もっと活動に参加したい。そして会員を増やして、できるだけ他の行事にも参加できたいいなと思っています。」と話されました。

……JA中央会……

2009年度JA農業イン ターン事業修了、23人が就 農!



▲修了式の様子

JA熊本中央会は3月24日、JA熊本教育センターで2009年度熊本県JA農業インターン事業修了式を開き、インターン研修生36人が11ヶ月間の研修を修了しました。36人のうち23人(05～08年度まで33人が就農)が4月から就農を予定しています。

本事業は、JA熊本中央会が地域農業の担い手となる人材の育成を図る目的で2005年度より取り組んでいる事業です。

式では、研修修了生や受入農家、JA職員など約90人が参加。まず主催者としてJA熊本中央会の江誠一郎常務がお祝いの言葉を贈り、全員に修了証書を授与し今後の活躍を祈念しました。

本年度は4月5日開講式が行われ、1ターン18名や新規学卒者5名を含む35名が入講しました。

組織・事業改革等を推進

JA熊本中央会・連合会臨時総会(JA熊本中央会、各連合会は3月30日、熊本市で臨時総会を開き、2010年度事業計画などを承認しました。

JA熊本中央会の園田俊宏会長は「将来とも組合員をはじめ、地域から最も信頼される存在となることを目指し、組織・事業改革等に邁進する必要があります」とあいさつしました。

中央会の事業計画では、22年度の基本的課題として、①農政課題への対応②第23回JA熊本県大会決議事項の着実な実践③信頼を高めるJA経営の確立④期待に応える中央会機能の発揮を挙げました。

さらに、特別決議として、①「食料・農業・農村基本計画」の実践や現場実態を踏まえた戸別所得補償制度への対応②WTO・EPA交渉では多様な農業の共存を可能とする農産物貿易ルールの確立への国民理解促進③JAくらしの活動を軸に地域の再生を目指し、組織の活性化と集結力強化等に取り組むことを採択しました。

経済連は、①生産基盤の維持・拡大と県農畜産物の販売力強化②生産・流通コストの低減③事業競争力強化と豊かなくらしの支援等。

また厚生連は、①JAらしい健康管理活動の展開②満足度の高い検診活動の充実③「心身ともに健康」をキーワードとした健康増進活動の強化④厚生連診療所の機能発揮等一重点施策として取り組みます。

……JA経済連……

食材モニター研修会

JA熊本経済連は、3月25日、同ホールにて食材宅配モニター研修会を開催しました。これは、食材加入者のメニューに対する意見・要望など幅広い意見を聞き、より多く反映させ、メニューの充実・強化に取り組むため、満足度の向上を目指し、より良い食材宅配を実現するのが目的です。

県内食材会員より選ばれたモニターなどおよそ50名が参加。モニターへの委嘱状の交付を行い、これから年間アンケート調査等に協力してもらいます。

研修会では、株式会社から、「食品添加物について」ということで、研修を行いました。また、宅配されている「無着色明太子」や「あじ」や「いか」のさばき方についてのアドバイスを、福岡県漁協協同組合連合会より行いました。

中央会・連合会営農生活センターからエコープマーク品と食材の商品を使い、電子レンジで簡単に出来る料理講習を行い、参加者からは「とてもおいしいので、是非、家で試してみたい。」という声が聞かれました。

事務局では、今日の研修会をきっかけとして、さらに会員



▲研修会の様子

さんの満足度向上と、会員拡大を目指していきます。

日本茶ティスティングフェア in くまもと

日本茶インストラクター熊本支部、熊本茶業協同組合、熊本県経済連茶生産流通協議会は、3月27日、経済連7階ホールで日本茶ティスティングフェア in くまもとを開催。お茶の持つ多様性や淹れ方で変わる味を実感してもらい、新茶直前のこの時期に、くまもと茶への関心を高めてもらうのが目的です。

フェアには、一般消費者約1000人が参加。県産茶を中心に、玉緑茶や煎茶、釜炒茶や国産紅茶など様々なお茶の飲み比べや、日本茶インストラクターによるお茶の淹れ方教室を体験しました。

参加者はおいしいお菓子を食べつつ、お茶の種類や製法、おいしい淹れ方について手ほどきを受け、くまもと茶に親しみました。

近年、問題となっている食の簡便化や核家族化により、急須を用いてお茶を淹れて飲むという習慣が薄れてきています。この会をきっかけとして、お茶の持つ本来のおいしさや急須でお茶を淹れることを楽しんでもらえたら、と主催者は話しています。



▲くまもと茶に親しむ消費者ら

「アンパンマンミュージカル」

「おかしの国のおかしなパーティー」開催！

JA共済では、3月20日（土）崇城
 大学市民ホールにおいて、アンパンマ
 ンミュージカル「おかしの国のおかし
 なパーティー」を開催しました。

このアンパンマンミュージカルは、
 アンケートに答えてご応募いただいた
 方の中から抽選で700組1,400
 名をご招待して開催したもので、県内
 外から6,451通のご応募をいただ
 きました。

当日は、天候にも恵まれ会場入り口
 に設置した、アンパンマンなどの人形
 や立看板と記念撮影をする親子がたく
 さん見られました。



▲抽選で700組1400名を招待して開催

公演では、「それいけ！アンパンマン」
 の主題歌をはじめ、アンパンマンのキャ
 ラクターソングでおなじみの双子のユ
 ニット、ドリーミングによる歌のショウ
 で始まりました。この日を待ちに待っ
 た子どもたちは、手をたたいたり体を
 動かしたりしてとても楽しんでいまし
 ました。ミュージカルが始まると、歌に合
 わせて軽やかに踊る人気キャラクター
 たちに目を輝かせながら、ミュージカ
 ルの物語の世界に引き込まれていまし
 た。途中で、ガイコツの顔をしたホラー
 マンが登場すると、びっくりして泣き
 出す子どもいましたが、みなさんとも
 楽しんでる様子でした。

JA共済では、このような「アンパ
 ンマンミュージカル」などのイベント
 を通して、今後も地域のみなさまとの
 つながりを大切にしていきます。



ヘルシーなダイエットにはごはん食
 がおすすめです！

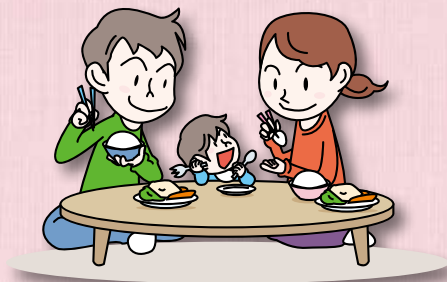
コラム 食と農

栄養バランスのよい健康的なダイエットに
 は、ごはん食が最適です。食べ物が体に入ると、
 体内では体脂肪の合成を促すホルモン、イン
 スリンが分泌されますが、ごはんは炭水化物
 食品の中ではインスリンの分泌を刺激する力
 が非常に弱く、ダイエットに向いています。

また、ごはんが主食のごはん食は焼き魚や
 刺し身、おひたしなど油を使わない料理と組
 み合わせやすく、低脂肪の献立作りが容易。
 さらに、ごはんはたっぷりの水を吸わせて炊
 き上げるので、量のわりにエネルギーが低く、
 この点でもダイエット向きです。

ヘルシーなダイエットにはごはん食がおす
 すめです！

出典：JA全中「わたしのごはんブック ごはん健康保
 存版」



「よい食クイズ」

Q. 米ぬかは、肌をきれいに
 する。

ウソ？

ホント？

←正解は裏面へ

JA共済
一軒一軒、会ってお話することが、
安心を育てます。



JA共済 サンキュー ふれあい キャンペーン
詳しくは、お近くのJA（農協）へお問い合わせください。
■ホームページアドレス <http://www.ja-kyosai.or.jp>

サンキューふれあいキャンペーン実施中！
<http://www.3qja.jp>

10481050151

食と農 ひらく未来へ確かな目

「食と農のかけ橋」面を創設 食のニーズ、消費者の声を正しくとらえて産地へ価値ある情報を発信します。月曜日から金曜日まで終面カラーで届けます。



紙面を刷新▶情報を素早く分かりやすく
役立つ情報を毎日▶農産物市況予測を充実・農業の実用記事を満載・気象見通しを強化

JAグループ
日本農業新聞

購読のお申し込みはJAへ 定価1か月2,550円 JA熊本中央会

【よい食クイズ】

答え：ホント

米ぬかに含まれるビタミンEやビタミンB群には、肌の老化防止や、ツヤのある肌をつくる効果があるといわれています。そのため、米ぬかを使った化粧品もたくさんあり、多くの人に親しまれています。

JA全中発行「ごはんちゃんのお米クイズ（科学編）」より転載



2009年11月 旬のふれあい食材 選べるうれしさがプラス!!

JAのふれあい食材 リニューアル

専用の申し込み用紙で 宅配日毎に お好きなコースが選択できます。

基本コース わかくさコース
おまかせコース いきいきコース

基本コース商品のみ
新オプションコース登場!
～プラスワンコース～

6,300円/月
1ヶ月・10～12週間
基本コース利用時

お問い合わせはお近くのJAまで

全長12cm前後で、スズメよりも小さめ。緑がかった背と暗褐色の羽を持ち、雌雄同色。目の周りの白い輪が特徴であり、名前の由来ともなっている。日本で見られる野鳥の中では、ミソサザイに次いで最も小さい部類に入る小鳥である。

● 盟友の皆様のご意見や周辺地域の話題、写真等、各地区の総支部・支部（JA本・支所）へお寄せいただければ幸いです。

連絡先 熊本県農政連
電話 096-328-1284
FAX 096-328-5007



● メジロ（目白）
スズメ目メジロ科の鳥。

あとながき